

# 大井九条の会

大井九条の会  
事務局連絡先  
83-2358 二上

日本国憲法 第二章 戦争の放棄  
第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国

権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。  
第二項 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



布施祐仁  
(ふせ・ゆうじん)  
ジャーナリスト

大井九条の会 平和の集い  
「戦後80年と不戦の決意」  
～日本とアジアを再び戦場に  
しないために～

12月6日(土) 14:00～  
布施祐仁さんの講演の録画視聴  
(添付チラシをご覧ください)

## 11月2日の定例会では

学習では12月の集いで使う講演の録画版を視聴しました。「わかりやすいね」との声もあり、チラシを使い呼びかけようと話合いました。あと、集いの役割分担など詳細を検討しました。

次回定例会11月30日(日) 14時

河原自治会館

今夏の終わり頃、我が家に近い駅前の一軒の古い建物が取り壊された。

ここは、元々はご夫婦で布団屋さんの打ち直しをしてもらったり、長女が生まれる時には赤ちゃん布団も作ってもらった。ご高齢を理由に布団屋さんを辞めてからは、ご主人の趣味であるひょうたんをお店に飾ってハイキング客がフラッと寄ったり、噂を聞いた愛好家が訪れていた。

### 思い出のお店

我が家の子どもたちは、幼稚園バスにその駅から乗っているの、朝と昼過ぎには、ほぼ毎日お店の前を通っている。ご主人がお店の前を掃除したり、奥さんが店内から外を眺めていると挨拶する程度の付き合いだった。

それがなんのきっかけか、ある時からお店に立ち寄らせてもらうようになった。最初、次女がご夫婦と仲良くなり、朝はわざわざバスの出る時間あたりにお店を開けて、ご主人がお店の前からバスの中の次女に手を振って見送り、帰りはおやつを用意して待っていてくれたりした。入店を知らせるチャイムが鳴ると、お店の奥からニコニコと出てきて、迎えてくれるおじちゃんとおばちゃん。元来人懐っこい次女は、すぐご夫婦に懐き、バスから降りると、駅から

一直線にお店に直行し、そのうちお店の奥にあるプライベートスペースにまで入って行って「おじちゃん、ただいまー」と呼びに行ったりした。あまりに自然に、当たり前のようにお店に入っていく次女の姿に、友達から「あそこは、〇〇ちゃんなの?」とよく聞かれたほどだ。



我が家は、夫の両親と同居しているので、子どもたちにとって、おじいちゃん・おばあちゃんが珍しいわけではないが、とにかくよく懐いていて、それはそれは可愛がってもらった。次女は、七五三の写真を見せに行ったり、ピカピカのランドセルも背負って見せに行った。

そんなある日、奥さんが居なくなりました。高齢なので、お店に出てこないことも多くなっていたが、その時は家で転んで入院し、そのまま施設に入るようになったとのこと。ご

主人は、少し良くなったらまた家で面倒見る、と話していたが、そのまま去年の年末に奥さんは亡くなってしまった。しばらくしてからその訃報を知った私たちは、家族揃ってお線香をあげに行った。いつもニコニコ子どもたちを迎えてくれた奥さんの遺影を見て、とても辛かった。残された高齢のご主人のことが気に掛かり、たまに子どもとお土産を持って行ったりしたが、お店は完全に閉めてしまい、たくさん飾ってあったひょうたんも、寄付してしまったそう。そのうち、訪ねても留守が続いていて心配していたが、どうやら息子さんのところへ行ったことがわかった。それなら良かったと安心したもの、シャッターの開かないお店が寂しかった。

そして、私たち親子にとっても思い出のお店は、この夏に無くなってしまう。

私が育ったのも静岡県の田舎町だったので、子どもの頃は、祖父母と一緒に隣の家の家にお茶を飲みに行ったり、学校から帰ってきて自宅が留守の時は、60代くらいの女性が一人で住んでいた自宅前の家によくお邪魔して待たせてもらったりと、よく近所の家にお邪魔していた。隣組・近所付き合いが、当たり前の時代だった。今は、なかなかそういうことが難しくなっていると感じるし、そもそも近所付き合いのほとんどない家もある。そんな中、子どもたちに私たちが子どもの頃に体験した「近所付き合い」を経験させてくれた、あのお店のご主人と奥さんには、感謝しかない。

子どもたちは、毎日見ていた景色がなくなり、大好きなおじちゃん、おばちゃんと会えなくなり、今もたまに「さみしいね」と呟く。

私は、「今度、おじちゃんにお手紙書いてみようね。おじちゃん、元気かな」と、何も無くなってしまう跡地を見ながら、返事をした。

山崎もも子